

20年の軌跡、そして新たな挑戦へ

日時：2026年6月19日(金) 13:30～17:00

中継

イノホール Room Aから、ネット中継
(建設トップランナー倶楽部
ホームページよりライブ配信します)

開催趣旨

建設トップランナー倶楽部は、夢と希望をもって先駆的な活動を続ける地域建設業の経営者の集まりです。フォーラムは、環境変化に合わせて数多くのテーマを掲げながら開催して参りましたが、20年の節目を迎えることで、最後の開催となります。これまでの歩みを振り返り、次のステージに挑戦する、新たな一歩にしたいと思います。

主催

建設トップランナー倶楽部

後援

日本青年会議所建設部会
全国建設業協会
建設業振興基金
建築技術支援協会
日本プロジェクト産業協議会
建設コンサルタンツ協会
地方建設専門紙の会

参加費 無料

視聴申込方法

下記のフォームからお申込みください。
<https://ws.formzu.net/fgen/S233019511/>



建設トップ倶楽部ホームページからも
お申込みいただけます。

<https://kentop.org/>

【問い合わせ先】

建設トップランナー倶楽部 事務局
〒113-0023 東京都文京区向丘 1-5-4
ワイヒルズ 2階 米田事務所内
中川寛子, 大里茂登子
TEL 03-5876-8461 FAX 03-5876-8463
Mail: info@kentop.org
ホームページ: <https://www.kentop.org/>

プログラム

【13時30分-14時00分】

司会	建設トップランナー倶楽部幹事	丹羽庸介	愛知県
	建設トップランナー倶楽部幹事	幌村佑規	北海道
開会挨拶	フォーラム実行委員長	吉崎英一郎	島根県

来賓挨拶	前内閣総理大臣	石破 茂	
来賓挨拶	国土交通大臣	金子恭之	
来賓挨拶	農林水産大臣	鈴木憲和	
来賓挨拶	元国土交通大臣	太田昭宏	
来賓挨拶	国土学総合研究所長	大石久和	

【14時01分-14時21分】

「建設トップランナー倶楽部の20年の軌跡」
荒木コンサルティングオフィス代表 荒木正芳 北海道

【14時22分-15時48分】

第1部 インフラの町医者／複業で地域を支える

アドバイザー	国土交通省官房審議官(技術)	小島 優	
	国土交通省官房審議官(不動産・建設経済)	藤田昌邦	
	農林水産省農村振興局整備部長	石川英一	
	林野庁森林整備部長	齋藤健一	
「緑化防草でGX効果」	皆建会長	皆川一二	新潟県
「まちを止めない ～多事業で地域未来のお手伝い～」	柄谷工務店副会長	柄谷裕子	兵庫県
「家業から複業への変遷～文字家から富士建設の場合～」	富士建設社長	文字正和	神奈川県
「うなぎの養殖から農業、商業へ」	山本建設社長	山本祐司	熊本県
「ICTの普段使いを目指して(地方中小企業の挑戦)」	工藤建設社長	蜂谷剛司	岩手県
	常務取締役	高橋武彦	

【15時50分-16時45分】

第2部 メッセージ「20年の軌跡、そして新たな挑戦へ」

日本農福連携協会会長理事	皆川芳嗣	
国土政策研究会会長	谷口博昭	
全国木材組合連合会専務理事	本郷浩二	
免震研究推進機構代表理事	和田 章	
建設トップランナー倶楽部幹事	深松 努	宮城県
建設トップランナー倶楽部幹事	佐久間源一郎	福島県
建設トップランナー倶楽部幹事	小野貴史	新潟県
建設トップランナー倶楽部幹事	森崎英五郎	福島県
建設トップランナー倶楽部幹事	長瀬雅彦	岐阜県
建設トップランナー倶楽部幹事	砂子邦弘	北海道
建設トップランナー倶楽部幹事	西山 周	愛媛県

【16時46分】

終わりの言葉 20年の感謝を込めて次のステージへ
建設トップランナー倶楽部代表幹事 米田雅子

令和8年 第20回建設トップランナーフォーラム

20年の軌跡、そして新たな挑戦へ 発表概要

建設トップランナー倶楽部の20年の軌跡 【14時01分-14時21分】



建設トップランナー倶楽部の20年の軌跡

荒木コンサルティングオフィス代表 荒木正芳 北海道

2000年代、度重なる公共事業の削減で地域建設業は、厳しい経営環境に直面し、生き残りをかけた模索が始まりました。本業以外の農業、介護、リサイクル、コミュニティビジネスなど新たな分野に挑戦する企業・団体を支えた建設トップランナー倶楽部の「20年の軌跡」を振り返ります。

第1部 インフラの町医者／複業で地域を支える 【14時22分-15時48分】



緑化防草でGX効果

皆建会長 皆川一 新潟県

インフラの町医者と複業化の一つとして「スナゴケを利用した緑化防草一体化シート」に取り組んでいます。道路脇や分離帯、道路緑地帯に使用します。従来の防草シートに比べて、耐久性に優れ雑草のメンテナンスコストが大幅に軽減されるなど、GX効果の創出につながっています。



まちを止めない ～多事業で地域未来のお手伝い～

柄谷工務店副会長 柄谷裕子 兵庫県

人口減少・インフラ老朽化・災害リスクの増大に対し、柄谷グループは多事業展開で応えます。建築・土木・設備・物流・資材・リフォーム・不動産の7社連携により、PFI事業での長期サポートと緊急時の即応体制を構築。本業と地域貢献活動の両輪で、「まちを止めない」をモットーに、持続可能な地域社会を目指す取り組みを紹介します。



家業から複業への変遷～文字家から富士建設の場合～

富士建設社長 文字正和 神奈川県

1982年に重機土工の建設会社として創業。以後、伐採工事、土地造成、耕作放棄された農地の再生から始まった土地改良事業と、その農地を利用した足柄茶の栽培を手掛けています。建設業から環境リサイクルと農業をはじめとする複業に至った歴史を、創業者のルーツから辿りご紹介いたします。



うなぎの養殖から農業、商業へ

山本建設社長 山本祐司 熊本県

公共事業の減少に対応するため、2008年からウナギの養殖事業に乗り出し、液化酸素を使った循環式のタンク養殖で約4億円の売上を確保しています。その後、養液自動配合装置を使ったイチゴ栽培の試験圃場に着手し、システムの販売までたどり着きました。そのイチゴを使った店を長崎市内に構え、お菓子の開発や貿易に挑戦しています。



ICTの普段使いを目指して(地方中小企業の挑戦)

工藤建設社長 蜂谷剛司、常務取締役 高橋武彦 岩手県

2016年のi-Constructionの始動から、当社は常に最新技術と向き合ってきました。辿り着いた答えは「中小企業こそICTで変わる」という確信です。背伸びをしない、現場に根付いた「普段使いのICT」が生産性を劇的に変えました。その具体的な活用術と当社の挑戦を発表します。